

住みよいたけし

住みよ武石をつくる会広報

第5号

2018年2月16日発行

事務所 武石地域自治センター内

TEL:0268-85-3667

<http://www2.marukotv.jp/~s-takeshi>

印刷 中澤印刷株式会社



松くいの被害を無くす

武石地域では、鳥屋・沖から武石公園裏付近まで、松枯れが目立つようになってきています。被害木の伐採による拡散防止も重要ですが、松の木に薬剤を直接注入する方法が予防効果が高いとされています。

1月11日から3日間、延べ40人が参加し、松くい虫被害の最前線にある下武石所沢の武石財産区有林の赤松200本余に、予防薬の樹幹注入が行われました。住みよ武石をつくる会自然・生活環境部会員も松枯れ予防活動に参加しました。

注入された薬剤は3か月ほどで木全体にいきわたり、薬剤の種類にもよりますが7年ほどは予防効果があるとのこと。

市森林整備課によると、自治会などの団体が、地域活動として行う松枯れ予防樹幹注入作業には、市から薬剤の無償提供・ドリルの貸し出し等の援助があります。

被害先端地区でマツノマダラカミキリの飛翔を抑えるため、数百メートルにわたる樹幹注入による防除帯を作る取り組みが、効果的といわれています。

武石地域は、上小でも有数の松茸生産地。これから地域を挙げて取り組む課題の一つといえます。

「たけし共育フォーラム2018」が開催

住みよい武石をつくる会子育て・教育文化部会（小林慎一部会長）が主催する「たけし共育フォーラム2018」が1月27日（土）午後、武石公民館コミュニティホールにおいて開催されました。

子育て支援を考える会、民生児童委員、PTA、長野大学生など約70名の人に参加し、地域の中での子育てについて考える会となりました。

初めに参加者全員が「ふるさとかるた」を楽しみ交流を図りました。ふるさとかるたは、昭和63年、当時の武石の小学生が、地域の文化・伝承・名所旧跡等を読み込んだ句や絵をかくて作ったカルタで、地域のことが自然とわかるものです。

次に昨年9月、武石で初めて小学4年から6年生24名が参加し3泊4日で行われた「武石わくわく通学合宿」について、運営協力した長野大学生10人による総括、意見発表がありました。

企画立案から武石地域子育て関係団体との連携、実施に至る過程での苦労や問題点、考えさせられたこと、4日間での子供たちの変化、自分たちの未熟さや達成感などが語られました。



▲職業体験発表を行う中学生

続いて「職業体験学習から学んだこと」と題して、武石出身の依田窪南部中学校2年生7名が武石地域の様々な仕事・職場体験したことから感じたことが発表されました。

北沢土建の工事現場での作業、武石保育園での保育体験、小学校、ともしび博物館など、現場の仕事を3日間体験し普段の学校生活や家庭では学べないことを実習し、将来を考えるきっかけとなった経験が発表されました。

その後



▲「ふるさとかるた」で遊ぶ

- 1 「ふるさとかるた」で遊ぼう
- 2 武石わくわく通学合宿が残したもの
- 3 職業体験学習で学んだこと

の3つの分散会に別れ、意見を交換しました。

この中では、地域の様々な文化を子供たちに伝えること、子供たちと地域のふれあい機会を増やすこと、働くことの大切さを伝えることなどについて意見の交換がされました。

今回の取り組みは、少子化、核家族化が進み、ゲーム機の普及など子育て環境が厳しくなる中で、普段なかなか機会が少なくなった子供と大人のふれあい、地域文化の伝承や、子育て環境を考える機会となりました。

最後に小林部会長は、「今年も子育て・教育文化部会では、地域の人々と一緒に計画を立て進めてゆくので、ぜひとも皆さんの手助けをお願いしたい」としてフォーラムを結びました。



▲3つの分散会での意見交換

武石を盛り上げる
人やグループ紹介

武石の人 団体

武石生活改善グループ みそ班



(右)
代表の橋詰美代子さん
(左)
班長の翠川寿美さん

20年程前に冬の農閑期の仕事として、5人のグループにより個人宅で味噌の仕込み受託を始めたのが「みそ班」の始まりです。その後、15年前に現在の農産加工所に作業場を移して事業を拡大、現在の味噌仕込み量は、年間約10トンになります。

味噌仕込み受託では、武石地域のみならず、上田市近隣の地域から約200件の依頼があり、作業場には、お客さんから持ち込まれた大豆、お米、樽などが整然と並んでいました。また、平成15年から、一般販売用の味噌「ずくっ娘味噌」の仕込みを開始、現在の販売用味噌の仕込み量は、年間約2.8トンで、全仕込み量の約3分の1を占めています。



「みそ班」には、味噌作りのこだわりがあります。

まず、原材料は、武石産の大豆、お米を使い、糀も自分たち手作りの物を使っています。

また、大豆を炊く工程では、かまどと大釜を使い、薪の火力で大豆を炊いています。

「以前、ガスを使ってみたがおいしくなかった。やはり、薪で炊いた大豆の方がおいしい。」と橋詰さんはこだわりを話します。



味噌の仕込み作業は、1月中旬から3月中旬頃まで続き、今年仕込んだ味噌は、7か月～11か月間熟成させると、おいしい味噌に仕上がるとの事です。

「おいしい味噌を、味噌汁で毎日味わってほしい。」と翠川さんは話していました。

●味噌作り体験

1月19日、武石小学校3年生の生徒たちによる味噌作り体験がありました。

3年生32名が昨年6月から種をまき、育て、収穫した大豆を使い、生活改善グループみそ班の皆さんの指導で、味噌作りの作業を体験しました。生徒たちは一生懸命に手を動かして、約1時間の作業で50kgの味噌の仕込みが終了しました。初めての体験に、生徒たちは「楽しかった。」と笑顔で話していました。



●ずくっ娘味噌

「ずくっ娘味噌」は、一般販売している味噌のブランド名です。武石産の大豆とお米、手作りの糀を使い、大豆の品種(こうじいらず、つぶほまれ、黒豆)による3種類の味噌は、それぞれの特長を生かした味噌となっています。また、3種類の味噌をセットにした物もありますので、味の違いを楽しみたい方や、贈り物にしたい方にお勧めです。



《購入できるお店》

- ・JA信州うえだ直売所「マルシェ国分」
- ・長和町 道の駅「菜の花館」

《インターネットでの購入は…》

ずくっ娘味噌工房

検索

藪合道祖神祭り

1月27・28日、藪合地区の小学生児童による恒例の道祖神祭りが開かれました。27日、この冬一番の零下13度を記録する冷え込みの中、朝9時に1～6年生の児童18名と、父母が集まり、灯籠作りと、御札作りに取り組みました。

灯籠作りは、男子児童が担当、木のフレームに刷毛でのりを塗り、障子紙を張り付ける作業を「手がべたべたする」と言いながら、顔を紅潮させ、真剣に取り組んでいました。

御札作りは女子児童が、代々受け継いだ版木を使い、1枚1枚丁寧に刷り上げ、朱印を押していました。外では、父親たちが竹を材料に、お船作りに精を出しました。



午後には出来上がった灯籠を道祖神に供え、子供たちがお船を曳きながら、「♪どうじどうじ♪こんがらどうじ♪」と道祖神の歌を歌いながら各戸を巡り、御札を配って歩きました。御札配りは、120戸全戸を巡るため、28日も行われました。

藪合地区の伝統行事である道祖神祭りも、少子化が進む中、今年6年生7人が卒業すると、新1年生は一人もおらず、児童数が全体で10人不足まで減少することになり、地域で進む少子化現象は、古くからの伝統行事の存続に赤信号をとめています。

総合センター建設基本計画説明会

つくる会の活動拠点、市民スペースも

武石地域総合センター建設基本計画説明会が、1月15～19日、武石公民館等で開催され、延べ67名が参加しました。昨年6月以来整備検討委

員会で検討されてきた基本計画の説明があり、現施設にある重複した機能の統合、会議室などの多目的な利用により、住民に利用しやすい施設としたいとのことです。

計画は、自治センター、公民館、健康センター、老人福祉センター等を統合整備し、現公民館敷地に一部3階建てで建設する、延べ床面積は2,300～2,500平米、建物の建設は32年度、既存建物の解体・外構などが終わるのは33年度を予定するなどの説明がありました。

市役所総合支所、公民館・図書室機能だけでなく、これからの武石の「地域・住民の拠り所」として、住みよい武石をつくる会の活動拠点、市民多目的スペース、高齢者生きがいづくりなど、コミュニティ拠点として整備したいとしています。

新自治会連合会役員が決まりました

1月12日(金)、平成30年度の武石地域自治会連合会が開催され、新年度の武石地域自治会連合会長に大布施・巢栗自治会長の浦部秀幸さん、副会長に沖自治会の山口英宏さんが選出されました。副会長は、武石地域社会福祉協議会役員を兼ねます。

浦部 秀幸《新武石自治連会長》

東京から武石に移り住み30年、私にとって大きな節目となる年に、伝統ある武石地区自治会連合会の会長職を拝命し、これも何かの巡り合わせかと思っております。正直なところ戸惑いや不安もありますが、家族、友人・仲間、地域の方々等数多くの人財のお力添えを頂きながら、住みよい地域づくりの一助を果たせたらと願っておりますので、ご理解ご協力の程宜しくお願い申し上げます。

現在、私は移住定住の促進と自治会、とりわけ小規模自治会のあり方に関心を寄せており、在任中に鋭意探究して参りたいと考えています。

山口 英宏《新副会長》

武石地区自治会連合会副会長を務める事になりました沖の山口英宏です。住みよい武石をつくる会には昨年参加し、ふれあい交流部会に所属しています。各部会では、それぞれ計画に従って努力されておられます。自治会連合会と致しましても、皆様方と一緒に進みたいと思いますので、ご協力をお願い申し上げます。